

男子テニス部の活動

歯学科3年 下村純平

このたび部活動紹介というかたちで歯学部ニュースの貴重なスペースをいただけるということなので、この場を借りて歯学部テニス部の紹介をさせていただきたいと思います。基本的には男女混合で練習しているのですが、ここでは主に男子の活動について紹介していきたいと思います。

歯学部テニス部の男子は週2回の全体練と、1回の男子練を行っています。年に数回医学部や、日本歯科大学と練習試合も行います。よくテニス部は練習がガチだとか、休めないんでしょ？ という感じのことを言われ、厳しいイメージを持たれているようです。そんなことはありません。来年の1年生の勧誘のためにも断言しておきます。確かに他の部活に比べるとやや練習量は多く、休みにくい部活ではあるかもしれませんが、練習自体は決してハードなものではありません。大会前こそ練習量は多くなりますが、それはただテニスができればいいというのではなく、上手になりたい、勝ちたいといった向上心を持っているためであり、そういった高い意識を持っているところが

テニス部の良いところだと思っています。練習が終わってからも自主的にコートに残ってラリーをするなど、皆テニスを楽しんでやっています。僕自身テニス部には初心者として入部したのですが、テニスが大好きな先輩方に囲まれ、時にはOBの先輩も練習に参加し、熱心に指導していただき、自然とテニスを好きになることができたと思います。

さて、テニス部は年2回の大きな大会を目標として練習しています。8月にはデンタル、3月には四校戦といって奥羽大学、東北大学、日本歯科大学と試合を行います。デンタルは毎年、千葉の白子にあるテニス村という、その名の通り見渡すばかりテニスコートしかないようなところで開催されます。5月頃からランク戦というレギュラーを決める試合を始め、レギュラーの枠を争い、デンタルに向けて練習していきます。男子のレギュラーはシングルス3人、ダブルス4人の計7人です。自分は初めてシングルスレギュラーとしてデンタルに出場したのですが、やはり全国の歯学



部がこの大会を目標としているだけあって独特の熱い雰囲気があります。審判はミスをすれば責められ、場合によっては交代させられます。今年度のデンタルでは、5年ぶりに初戦を勝利で飾ることができました。初めて出場したデンタルでその瞬間に立ちあえたのはとても幸運なことだと思っています。テニスは個人競技と捉えられがちですが、ダブルス2試合、シングルス3試合の順に試合を進め、多く勝った方が勝ちになるという団体戦です。自分は阪大戦で、勝てばチームの勝利が決定するという試合で4時間以上試合をし、タイブレークまでいきマッチポイントが2、3回あったにもかかわらず(専門用語が続いてすみません)勝ちきれなかった試合があり、非常に悔しい思いをしました。今ではこの悔しさを来年のデンタル

へのモチベーションにしています。デンタルは部活にとっての大きな目標であり、そしてもっとテニスに夢中にさせてくれる大事な大会だと実感しました。

現在テニス部男子は6年生が引退してしまったため、1～5年生で7人しかいません。初心者として入部した自分もいつの間にか3年生で部長になっており、教えられる立場から教えていく立場へとシフトしていかなければなりません。経験者が少なくありつつあるテニス部ですが、そんな状況に甘んじることなく来年のデンタルへ向けてより良い結果を求めて練習に励んでいきたいです。部長として色々プレッシャーはありますが、まずは先輩方が今まで残してきた部活の良い雰囲気を受け継いでいけたらと思っています。



女子テニス部紹介

歯学科3年 宮 福 子

新潟大学歯学部女子硬式庭球部の紹介をさせていただきます。テニス部の紹介が続いてしましますがこちらにも飽きずに読んでいただけたら幸いです。

テニス部は男子部女子部と別れてはおらず基本的に一緒に練習しています。現在女子は1～5年生の10人で週2の全体練習と週1の女子練習を中心に活動しています。メンバーは中学高校もテニスをやっていた人から大学から始めた初心者までいてレベルは様々です。同じ練習を一緒にやることで初心者は上手い人と沢山打ち合うことができ、良いプレーを見本に練習するのでどんどん上達できます。教える側も教えながら気づかされることもありプラスになると思います。そうやって教えたり教えられたり、見て良いところを盗んだり、ライバル意識持ったりと互いに高め合いながら活動しています。

よく耳にするのがテニス部は厳しいんでしょ？というイメージです。この噂に入部前は怯えました。でも実際は厳しいというよりは部活らしい部活だと思っています。そして自分たちも部活らしい部活であろうとしています。練習や部活の行事

にはしっかりくること！これは決まりです。このせいで大変なこともあります。テニス部の魅力でもあると思っています。部活に行けば必ずみんながいる、というのが私は好きです。勉強に疲れても部活でその辛さに共感してくれる先輩が愚痴を聞いてくれます。先輩の経験に基づきありがたいアドバイスも聞けます。なにより私たちより忙しい先輩が部活に来ていると自分もまだまだ頑張れると勇気をもらえます。そして逆に後輩には来年はもっと忙しくなるよ～と偉そうに語れるのが嬉しかったりします。私の中では勉強の息抜きとしても部活は大切です。なので、勉強が大変な時期にひーひー言いながら部活するのも案外いいものだと思って楽しんでいます！

テニス部の三大イベントに四校戦・大藤杯争奪戦・デンタルがあります。デンタルの話は下村部長におまかせして私は四校戦と大藤杯について紹介させていただきます。

四校戦とは毎年3月に行われる新潟大学、日本歯科大学新潟生命歯学部、東北大学、奥羽大学の四校による合同練習試合です。練習と交流が目的なので和気あいあいとした雰囲気です。主幹は毎



年交代で行い主幹校に集まり試合をするので、仙台と福島に行く年はちょっとした旅行でもあり楽しみなイベントです。3月は四校戦に向けて練習日を増やし冬のなまりを取って四校戦に望みます。しかし去年の四校戦は直前におきた東北地方太平洋沖地震のため、開催を断念いたしました。

大藤杯争奪戦とは毎年6月に行う現役部員対OB・OGの先生方の試合です。通称OB戦と呼ばれ毎年優勝杯をめぐり熱い戦いが繰り広げられます。やはりテニスは一生もののスポーツということで卒業後もテニスが続けていらっしゃる先生方も多くこのOB戦を楽しみにしてくださっています。現役部員が勝ちたいところですがこてんぱんにやられることも多々あり、もっと頑張れ！

とエールをいただきます。先生方からはテニスの技術面で多くのことを学ばせていただくことはもちろん、テニスと長く付き合い楽しんでいる姿を見せていただけています。OB戦は先生方とのつながり、そして卒業後のテニスとのつながりを大切にするテニス部の伝統なのです。

今（原稿を書いている今）は一月末、今年は大雪です。コートもすっぽり雪の下に隠れてしまいテニス不足なので、春よ早く来いといった気持ちです。テニス部はとても良い部活なので春にはたくさんの新入部員が入ってくれることを期待しています。駄文ではありますが読んでくださりありがとうございました。これからも新潟大学硬式庭球部を宜しく願いいたします。



野球部紹介

歯学科3年 加瀬 裕太郎

野球部っていえば、高校を出て大学生になっただけの方からしたら、毎日厳しい練習にうち込み冬季でも筋トレ、ランニングは欠かさない！といったイメージをお持ちの方も多いのではないのでしょうか。僕も入学当初はそうでした。そこで今回、歯学部ニュースの貴重なスペースをお貸しいただいたので、歯学部の野球部について少し紹介したいと思います。

活動紹介

僕ら野球部は毎週月曜、金曜の放課後に附属小学校のグラウンドを借りて練習活動を行っています。高校までとは違い、自分達で練習メニューを考えて行っており、各自が自分の考えをしっかり持ちより自発的に練習に参加しています。部員数は多くないです。毎年卒業生が抜けると、来年新入生が入ってくれなかったら危ない!! っていう状態になるのですが、なんだかんだ入ってきてくれて常にぎりぎり継続できているのが近年凄いなと思う様になってきました。(笑)人数が少ないのは確かですが、一人一人の野球への思いは熱く、日々楽しみながら試合に臨んでいます。

大会

歯学部野球部は他の部活と違って、全国歯学部生の大会であるデンタルがありません。その代わりに春、秋の毎週土日に新潟県内のリーグ戦で多く試合を行っています。リーグ戦への参加校は十数校にのぼり、春リーグでは一校、秋リーグでは二校がそれぞれ全国大会、東日本大会への出場校として選ばれます。狭き門なので、各大学による熾烈な争いが毎年繰り広げられています。近年、歯学部野球部は全国大会から遠ざかってしまっているため、来季こそは全国出場の機会を得ようと、部員全員で日々奮闘している最中です。

部活動以外で

毎年春には花見を、夏には浜コンを行っています。浜コンはバスケ部と合同で開催するなど、他の部活との交流もあります。冬になればスノーボードに行ったり、鍋パーティーを行うなど部員の皆で新潟の四季を感じています。試合が雨で中止になればすぐさまボーリングに行き、半分ボーリング部となりつつあります。(笑) このように、練習、試合以外でも野球部の活動、交流は盛んに行われています。



主将として

3年生で主将となり、高校まで野球をやっていたので、大学でも自分が野球部を引っ張っていくという気合は充分ありました。しかし、少ない人数のなか練習メニューを考えるのも大変ですし、試合の組み立ても常に考えなければならず、なかなか自分のプレーに集中することが出来なかった時もありました。プレー以外でも幹部学年は思った以上に仕事が多く、学校との両立が大変な時期もありました。そんな中でも、先輩たちが声を掛

けてアドバイスをくれたり、後輩たちが自発的に仕事を探してくれたりしてくれて大きく支えられ、助けられました。僕が野球を続けられ、頑張れるのも周りの人たちのお陰なのだと実感しました。

これからも周りの方々に支えられている事に感謝しながら、野球部を盛り上げ、全国大会や東日本大会に出場できるように活動し続けたいと思います。

